

会 議 記 錄

会議名称	第 19 期杉並区社会教育委員の会議
日 時	令和 7 年 7 月 1 日 (火) 午前 10 時 30 分～午後 0 時 04 分
場 所	東棟 6 階 教育委員会室
出席者	<p>委員 大橋、奥山、加藤、齊藤、宮田、天野、荻上、佐藤、笹井 区側 教育長、生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館長、 社会教育センター所長、社会教育推進担当係長 (社会教育主事)</p>
配付資料	<p><配布資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 杉並区社会教育委員名簿 2 教育委員会委員・管理職等一覧/教育委員会係長級職員一覧 3 杉並区社会教育委員制度の概要 (含、杉並区社会教育委員の設置に関する条例・同条例施行規則) 4 社会教育センター広報 <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 郷土博物館 企画展「親子で楽しむ物語絵」チラシ 2 郷土博物館分館 企画展「ふたつの疎開」チラシ 3 郷土博物館分館 区民参加展示「被爆者の声を受け継ぐ」チラシ 4 家庭教育講座「スマホトラブルから子どもを守るには」
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育長挨拶 2 委員等紹介 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員自己紹介 (2) 事務局自己紹介 3 議長・副議長の選出 4 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 杉並区立図書館協議会委員の推薦について (2) 社会教育センター広報について 5 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 区の社会教育について感じていること (2) 今年度の予定
(意見要旨)	
<p>○生涯学習推進課長 このたびは、社会教育委員にご就任いただきましてありがとうございます。議長が選任されるまで進行を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。委嘱状につきましては、略式で恐縮ですが席上にお配りしております。よろしくお願ひいたします。</p>	

それでは、次第に沿いまして、まず、教育長よりご挨拶をいただきます。

○教育長 杉並区立中学校で7年間校長をした後、昨年4月に着任しました。私自身、社会教育に大変関心がありまして、部活動の地域移行など学校教育の分野から見ても、社会教育を充実させていくことが重要だと考えています。ライフワークとして、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。杉並区の教育ビジョン「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の実現のために、いいアイデア、お知恵を出していただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○生涯学習推進課長 本期は、前期からの3名の方に再任いただきとともに、6名の方に新規でご就任いただいております。お手元の委員名簿の順番に、自己紹介をお願いいたします。

その後、事務局職員の自己紹介をさせていただきます。

(委員および事務局職員自己紹介)

○生涯学習推進課長 では、条例及び条例施行規則に基づき、議長・副議長の選出を行いたいと思います。まず議長です。どなたか立候補される方や、ご推薦などございましょうか。

○A委員 前期の議長もされて、社会教育はもちろん教育全般に深いご見識と豊富なご経験をお持ちのB委員を議長に推薦させていただきます。

○生涯学習推進課長 いかがでしょうか?

(委員了承)

B委員に決定させていただきます。B委員は議長席へ移動していただき、ご挨拶をお願いいたします。

○議長 自由闇達に議論できるようななかたちで運営していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

では、副議長の選出に移りたいと思います。互選によります。推薦が無いようでしたらC委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか?

(委員了承)

ありがとうございます。C委員にお願いします。副議長席へ移動してください。

○C委員 私の役割としては和やかに、楽しく、学びとは何かを追求できる場にすることかなと思います。よろしくお願ひいたします。

○議長 次に事務局から配付資料の確認をお願いします。

○社会教育推進担当係長 (配布資料説明)

○議長 報告事項に移ります。杉並区立図書館協議会委員の推薦についてお願ひします。

○社会教育推進担当係長 杉並区立図書館条例に基づき設置されている図書館協議会の委員について、社会教育委員の会議から1名推薦することになっています。本期は荻上委員にお願いしていますので、ご承知おきいただければと思います。

○議長 社会教育センター広報についてお願ひします。

○社会教育センター所長 こちらのパンフレットは、社会教育センターや社会教育活動を紹介するとともに、区民の自主的な社会教育活動を進めていく一助として、今年5月に発行したものです。現在、図書館、地域区民センター、コミュニティふらっと等に配架していますが、社会教育活動を広めていく際に、デジタル活用なども含め、これを活用していきたいと考えています。

- 議長 協議事項の1番目は、区の社会教育について思っていることをお話しいただきたいと思います。社会教育とは、ほとんどの場合、社会教育活動という区民がやる活動を指しますが、文脈によっては社会教育行政を指すこともあります。どちらでも構いませんので、普段感じていることをお話ください。
- D委員 ポジティブにみんなで活動しようとか、学びながら何かやろうというものが増えているし、やや近似してきている感じがします。ポジティブな人を増やすのはとてもいいと思いつつ、若い人が参加するにはどうしたらいいのかという話もあり、参加しないでいる若い人がどういう気持ちでいるのか気になっています。今まで背中を押す方に軸足を置いてきましたが、その実やってることは、人と関わって大変だったとか、困ったとか、喧嘩したとか、うまくいかなかつたといった体験をきちんと回収して、もう一回チャレンジできるようにしていくということが全てだったと思っています。若い人は目の前の生きづらさが重要な世代でもあるので、回復やケアの仕方、救いや癒しといった辺りのバランスを皆さんと考えられるといいと思っていたところです。
- まちづくりは、どうしてもポジティブ目になっていくので、社会教育はもう少し駆け込んでいいところが欲しいなという感じがしています。
- E委員 ポジティブな場所に行くのがしんどいときがある…
- 議長 そうそう、ある程度気持ちが形になっていないと行けないところがあるのだけれど、対話とか世間話にも社会教育の要素があって、背中を押すようができるといいと私も思います。
- A委員 社会教育に限らず目的があることが前提みたいなところがあります。ただ学びたいから、好きだからということで、目的があるかないかはあまり関係なくていいと思います。子どもの頃、何かのために遊ぶことはなかったと思います。社会教育を考えるときには、目的があるかないかは関係ない事が大事だと思います。
- 教育という言葉が醸し出す、言葉の強さみたいなものがあると思いますので、そんなことも、皆さんとも議論できれば嬉しいです。
- F委員 「学びのプラットフォーム」を教育委員会が進めていて、学校運営協議会の方でも検討しています。昼間は子どもたちが中心、夕方は学童や放課後子ども教室を子どもと地域の人間が一緒にやる、夜は地域住民が社会教育活動に使える形に進めていくという学校3部制をやろうとしていますが、地域の社会教育の中心になるような形で進めるには、具体的にどうすればいいのかというところを話しあっています。
- 教育長 より多くの区民の方に学校施設を十二分にご活用していただいて、社会教育を推進、発展させていきたいという思いはあります。
- F委員 ハード面は行政でやっていただいているが、ソフト面はノーアイディアです。みんなで知恵を出し合って、どんな形で学校を社会教育に活用するのがいいのか検討していますが、当該校だけでやるのは難しいので、区内全体としてどういうふうにやるのがいいのかというようなことも、ぜひここで議論いできると助かると思います。
- D委員 他区で学校の建替のワークショップの企画運営をしたことがあります。具体的にどうなっていくかをイメージしながら話すことがとても大事ですが、そこに建築関係者がいない。人間は建築的な影響をすごく受けていて、見える、見えない、仕切られている、仕切られていないで安心感も関わり合いも全然違います。物理的に安心できないと人間は心理的に安心できないところも

あるので、一緒にやろうという気合だけでは交ぜられないし、連携することはできないのです。建築の分かる人、しかもワークショップができる人が現場にいないとこのテーマはすごく難しいとよく分かります。地域に開かれたシェアハウスは本当に暮らしとコミュニティースペースが隣接しているので、学校でやっていることは、そういう人たちが安心して暮らすということとほぼ同じです。

○C委員 人間に与える空間の影響が大きいので、多方面から物事を考えて進めていくことが大事だと思います。社会教育士が入って何かいいまとめ役になつてくださるのが理想と、お話を伺いながら思いました。

○議長 ソフトとハードが重なった部分もあるとなると、学校レベルではなく、教育行政の問題です。今後の検討課題の一つだと思います。

○G委員 学校を中心に地域の方々を集めて懇談会を開催しております。そこでは結構意見も出ますし、集まりもあります。ただ、そういうところに集まるメンバーは、他ところでも一緒になることが多い、「ここでも会ったね」ということがあります。なので、本当は、もっと来ていただきたい方がいると感じています。

○H委員 学校施設は地域みんなのものです。その時々の学校の判断ではなく、施設活用について、ある程度ルールづくりをしてもらいたいと思います。

青少年委員は各中学校区の地域教育推進会議や地域教育連絡協議会に関わっていますが、地域によって温度差があると思います。時代に合ったやり方に変化させながら、今の若い保護者を取り込んでいけるようにしていくことが大事だと思います。

○E委員 自分も親なので子ども中心で考えてしまっていましたが、社会教育は周りの大人が盛り上がらないと豊かにならないので、若い親世代が大事だなと思いました。

小学生が中学校に行って、部活動の中でちょっと何かを教えてもらったり、若い人たちの中には出会いを求めている人もいるので、婚活につながるような場もつくるのも、私の知っている杉並の社会教育はフランクに受け入れて、うまいこと面白くしてくれていると感じているので、この場で話せたらいいです。

○生涯学習担当部長 小学生が中学校に行くというのは、ある程度安全性の確保ということをしていけば、そういう壁はなくなっていくと思っています。

○C委員 小学生が保育園に、夏休み中、例えば行くというのも、東京都から補助金が出ていて、保育園側も来てもらうことがウエルカムです。だから、小学生と中学校の行き来も面白いです。異年齢で関わり合う、大人が子どもに教えなくても子ども同士で学び合う、子どもたちが地域でお兄ちゃんお姉ちゃんに倣ってということが今できない時代なので、意図的にそういうのはオーケーだよというような場をつくれるとすごくいいなと思いました。

○I委員 目標に向かってポジティブにいきましょうというのもすごく大事ですが、自然と参加して何か自分のプラスになるような社会教育であればいいと感じました。大学でも、学生だけでなく社会、地域の人の学びの場になるような取組は日頃やっていますが、もう少し気軽に参加できる場として、大学としてもやれることがあるかなと思っています

○C委員 目的があって学ぶということも大事ですが、目的なく悩みを抱えている人たちの居場所があって、そういう人同士で話している間に自分の学びが見えてくる場をつくることを応援することが、今の杉並区に足りていない部分か

なと思いました。できれば、小さい子どもたちの学びを大人が邪魔しないで学べる杉並区であってほしい。悶々として、何が学びか分からぬ、目的なく学んじゃいけないと思っている若い世代や子どもたちに、それも立派な学びだよ、面白いねということが分かるような地域づくりができるといいです。

○議長 もともと社会教育は形にならないものの方が多いので、おやじの会も地域学校協働活動も社会教育活動と位置付けることができるわけです。学校教育も形になっていますし、どうしても行政だと形になったものが見えてしますが、本来はそうじゃなくて、フワッとしているようなものだろうと思います。

ありがとうございました。いろいろ率直なご意見を伺えて、とてもよかったです。事務局の方と相談ですが、今期どういうことを協議事項としていくかということを、今の議論を踏まえて少し整理して、またテーマとして設定していきたいなというように思います。よろしくお願ひいたします。

それでは、次の議題で、今年度の予定について事務局からお願ひします。

○社会教育推進担当係長 (日程調整の方法について確認)

○議長 それでは、最後に部長からご挨拶をいただきたいと思います。

○生涯学習担当部長 本日は、本当に皆様から活発なご議論を頂き、ありがとうございました。

冒頭で教育長も申しておりましたが、教育委員会でやっていることは、大きく学校教育と社会教育とがあります。社会教育というとリタイアした人がやるものだというようなイメージがあったわけですが、何人かの方から若い世代が大事だということで、子どものうちから、学びの関心を広げ、そのまま社会教育につながっていく形ができていけばいいのかなと思っています。

今は子どもたちの部活や放課後の過ごし方も非常に多様になっていますので、その中で子どもたちの学びの関心が広がっていく、そういうことが話せたらいいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

○議長 それではこれにて第1回目の会議は終了させていただきます。